

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 782 号	氏名	多田 浩晃
学 位 審 査 委 員	主 査	鮎瀬 卓郎	
	副 査	戸田 一雄	
	副 査	藤原 卓	
論文審査の結果の要旨			
1. 研究目的の評価 本研究は、健常被験者に低強度で噛みしめを行わせた際の疼痛感受性の変化について中枢および末梢でのメカニズムについて解析するものであり、研究目的は妥当である。			
2. 研究手法に関する評価 運動負荷の前後に咬筋および手掌に電気刺激を行うことで疼痛感受性の変化について評価を行っている。運動負荷については低強度噛みしめの特異性を評価するため、被験者にはガム咀嚼と下顎安静位を行わせて比較・検討を行っている。また、電気刺激に用いた同心円電極についても評価を行っており、電極の直径の違いによる刺激深度の違いについても分析を行っており、その手法は適切である。			
3. 解析・考察の評価 同心円電極の評価では電極の直径の違いにより刺激深度を変化させられると考えられる。 また、被験者を用いた実験では、低強度噛みしめを行わせた際に運動負荷終了から 30 分経過後に時間的加重が減少し、中枢性に疼痛感受性が変化したと考えられる。これはガム咀嚼や下顎安静位では見られず、低強度噛みしめが特異的な運動であることが考えられる。 これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開、臨床への応用が大いに期待できる。			
以上のように本論文は歯科補綴学的研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値するものと判断した。			